

## 平成18年度助成団体メモ

### はこだて街なかプロジェクト 山内一男

希望金額 30万円 助成金額 0万円

予定されている今後の調査・研究等は以前に助成を受けた別団体により、すでになされている部分と重なり、インパクトが弱い。従来あるマップ等との違いも明確でなく、オリジナリティがない。これまでの活動から一步後退している感がある。むしろ、2006年度の「空地に花を咲かせようプロジェクト」の花壇作りをさらに発展させてほしい。しっかりした団体であるので、今後のもっと具体的な事業計画に期待したい。

### 函館市公民館活性ネットワーク、イキネット 松石隆

希望金額 40万円 助成金額 36万円

公民館は市のコンペで建てられた建築史的に意義ある建物である。傷んできているその建物の再生と活性化は西部地区の課題であり、市内の音楽活動+函館まちづくり+歴史的建物の活用の組み合わせは、当基金の目的にふさわしい。活動計画もはっきりと示されていて、明確であり印象が良い。音楽会の内容の中で、工夫の余地があるのではないかとということで、予算上もあり、助成金額は若干の減額となった。

### はこだてルネサンスの会 西堀滋樹

希望金額 30万円 助成金額 30万円

(公民館の音楽での活性化に対し、) 函館旧市街の文学ガイドマップ作りと文学散歩という「文学」という切り口が加わることによって、西部地区の魅力に奥行きが加わって、表現されることになる。団塊世代の町の楽しみ方としてだけでなく他の年齢層にも繋げて欲しい。採り上げる作家も調査内容と方法も明確で、助成金の使途も決まっています。多数の賛成で全額の助成となった。

### 函館町子 野口志乃

希望金額 36.1万円 助成金額 0万円

昨年度と今年度との比較で発展性が見られない。学生相手のワークでは、教育大のまちワークと重なり、目的がはっきりしぼられていない。他都市から実践の段階まで持っていくのは時間的にも金銭的にも厳しいのではないかと実現性への疑問もあり、次年度は実践的で具体的な準備をしてからの応募に期待したい。

### はこだてフォトアーカイブス 津田基

希望金額 50万円 助成金額 0万円

間世潜の写真資料整備・作成及びその紹介の2ということであるが、前年度助成は感材費用が主であった。報告会で保存された貴重な写真が紹介され、成果が認められたが、今回は同目的でありながら、助成金の使途がほとんど人件費という申請であり、基金の性格上、無理がある。また、前年度の助成に関して、熊谷孝太郎写真集が発行されたことに触れた。将来、基金の助成を受けた資料に関して出版事業等を行う場合は、助成を受けたことを記載することが常識となっていると受託者の住友信託銀行より指摘された。

### ペンキ塗りボランティア隊 山口健太郎

希望金額 48.4万円 助成金額 48万円

基金設立時からの事業で、目に見えるまちづくり活動であり、ビジュアルな景観改善の町づくりの函館からトラストの象徴的な活動である。大勢の参加者の協力を得て行うペンキ塗りは西部地区の町づくりに元気を与えている。今後とも続けて欲しい。

### 北海道教育大学函館校まちワーク研究室

希望金額 40万円 助成金額 36万円

地元の子供や学生が参加して、自分たちの住んでいる町を学び、楽しむことは、これからのまちづくり世代を育てる活動である。教育的見地からすれば、現在行われている函館市の事業と協力してさらに広がりを持つようにしてはどうか。年1回から月1回の計画的な活動は評価される。